

3.5 地域ブロック毎の特徴

植物は、地方に固有の種や亜種、変種がみられますが、それらは地史的、地理的な影響により分布が限られており、必ずしも地方ブロック毎での分布は必ずしも明確ではありません。

しかし、人間活動の影響によって侵入・定着する外来種については、一部の地方において侵入、定着し、その後他の地方へ拡大していくことが考えられます。

ここでは、近年増加傾向にある外来種のうち、限られた地方における確認が多い、ミズヒマワリ及びブラジルチドメグサの確認状況について整理しました。

【ミズヒマワリ、ブラジルチドメグサの確認状況】

(植物調査)

● ミズヒマワリ、ブラジルチドメグサは一部地方のみで分布拡大

ミズヒマワリは、3 巡目調査において、利根川水系で確認された後、4 巡目調査では利根川水系で確認地点が増加しています。他の地方では、4 巡目調査において淀川水系で確認された以外では、確認されておらず、現時点では利根川水系における確認がもっとも多くなっています。

ブラジルチドメグサは、3 巡目調査で確認され、九州地方の河川で分布が確認されました。確認河川は、3 巡目調査から 4 巡目調査にかけて増加しており、近年増加傾向にあると考えられます。現時点では確認河川は九州地方に限定されており、他の地方への拡大は確認されていません。

ミズヒマワリ、ブラジルチドメグサの 2 種は現時点では一部の地域でのみ確認されていますが、他の地方への侵入も考えられることから、今後の動向に注意していきます。

(資料掲載 3-96～3-97 ページ)

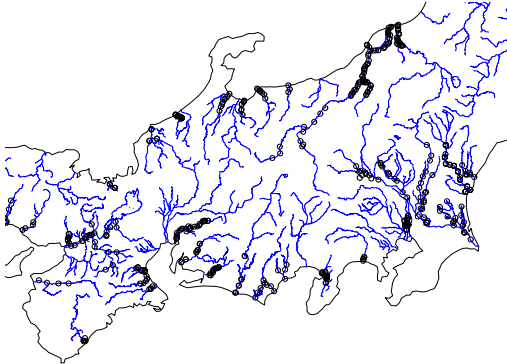
ミズヒマワリ (キク科) は、中央・南アメリカ原産の抽水性の多年草です。栄養繁殖が極めて旺盛で、ちぎれた茎から芽を出し、生長が早く、短期間で大きなコロニーを形成します。観賞用として輸入・国内栽培され、市販されています。また、水質浄化用としても流通・栽培されていました。3 巡目調査において、利根川水系で確認された後、4 巡目調査では利根川水系で確認地点が増加しています。他の地方では、4 巡目調査において淀川水系で確認された以外では、確認されておらず、現時点では利根川水系における確認がもっとも多くなっています。しかし、4 巡目調査において確認された淀川水系については、今後、利根川水系のように拡大する恐れがあり、その動向に注視が必要です。

ブラジルチドメグサ (セリ科) は、南アメリカ原産の多年草で、川岸や水湿地に生育します。泥に根を張って生活するとともに、水面を浮遊して分布を拡大します。栄養繁殖が極めて旺盛で、節から葉や根を出して急激に増殖します。国内では、魚の飼育用や観賞用として市販されています。野外では 1998 年ごろに確認されました。3 巡目調査で確認され、九州地方の河川で分布が確認されました。確認河川は、3 巡目調査から 4 巡目調査にかけて増加しており、近年増加傾向にあると考えられます。現時点では確認河川は九州地方に限定されており、他の地方への拡大は確認されていません。

ミズヒマワリ、ブラジルチドメグサの 2 種は現時点では一部の地域でのみ確認されていますが、他の地方への侵入も考えられることから、今後の動向に注意していきます。

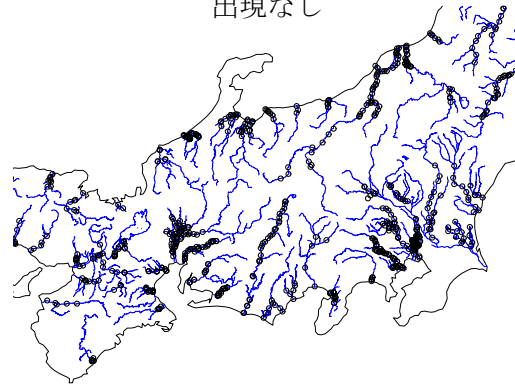
1 巡目調査 (平成 3～7 年度)

出現なし

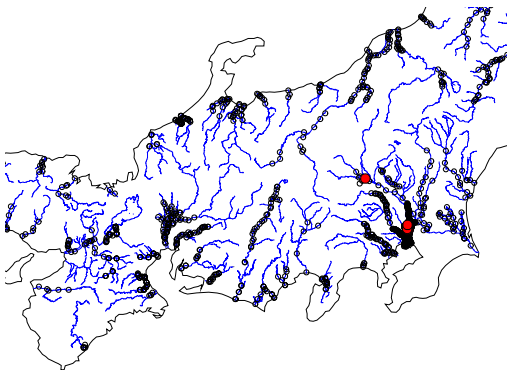


2 巡目調査 (平成 8～12 年度)

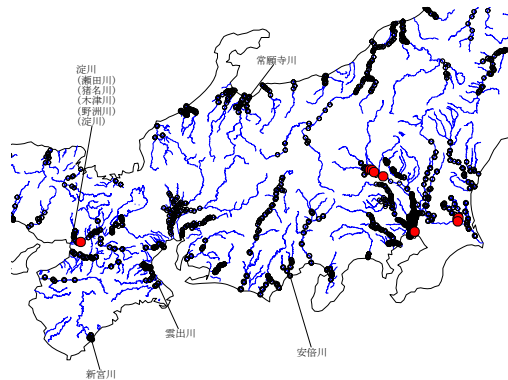
出現なし



3 巡目調査 (平成 13～17 年度)



4 巡目調査 (平成 18～21 年度)



凡例

● : 確認調査地区

○ : 未確認調査地区

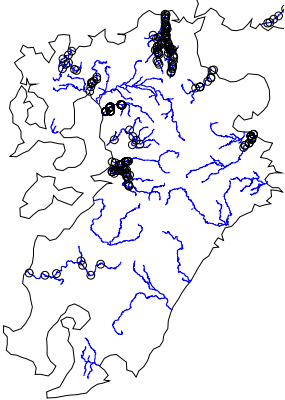
(河川名は平成 21 年度とり
まとめ対象河川を示す)

注 1) 4 巡目調査は調査実施途中で、123 河川中 62 河川が調査未実施である。

ミズヒマワリの確認された地域

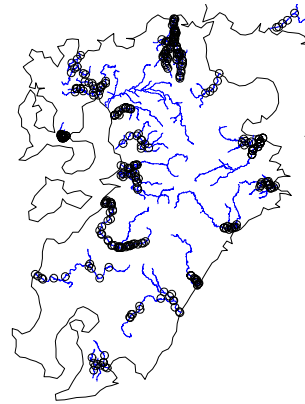
1 巡目調査 (平成 3～7 年度)

出現なし

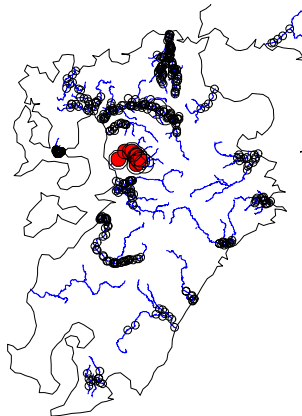


2 巡目調査 (平成 8～12 年度)

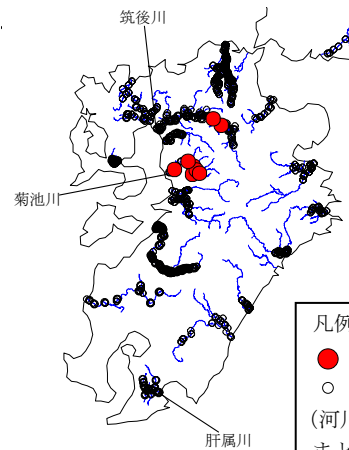
出現なし



3 巡目調査 (平成 13～17 年度)



4 巡目調査 (平成 18～21 年度)



凡例
 ● : 確認調査地区
 ○ : 未確認調査地区
 (河川名は平成 21 年度とり
 まとめ対象河川を示す)

注 1) 4 巡目調査は調査実施途中で、123 河川中 62 河川が調査未実施である。

ブラジルチドメグサの確認された地域